

土屋 衆議院議員 品子



ヌーベル13区

ありのままのことばで語る政治

2006
Vol. 1

2006年(平成18年)3月30日 第36号

編集: 土屋品子後援会編集部 ■ 発行: 土屋品子後援会 | 〒344-0062 春日部市和壁東1-8-15 TEL.048-761-0475 FAX.048-763-3475

土屋品子ホームページ OWLS NET WORK

<http://www.owls.co.jp>



3月10日外務委員会での討論

つちや品子の国会レポート

去る、3月2日夕方、衆議院本会議で平成18年度予算案が可決・成立しました。27日には、参議院本会議での審議を経て、8年連続で年度内に予算が可決成立しました。民主党によるライブドア問題（いわゆる堀江メール）の追及で、衆議院予算委員会が大揺れの中、国会ではあまり良い議論が無かったようにも思います。一方で、あきらめかけていたトリノ・オリンピックで期待の金メダルが荒川静香選手によってもたらされました。メダルゼロというプレッシャーもあったと思うのですが、本当におめでとうございました。さて、昨年拝命した政務調査会副会長（国土交通省担当）の仕事ですが、就任直後から耐震偽装問題等で、党内意見のとりまとめ、副大臣、政務官、部会長などを招集しての会議を開催するなど大忙しの毎日です。委員会

は、引き続き外務委員会と内閣委員会に所属していますが、外務委員会では、理事にもなりましたので委員会の運営について与党内調整や理事会で野党理事との折衝なども行っています。

また、先日は、外務委員会では安保条約に基づく駐留米軍の経費負担問題の採決前の討論で、与党（自民党、公明党）を代表して発言をしました。（内容は、HPでも公開中）

「改革加速予算」で新たな成長基盤強化

さて、来年度予算はこれまでの構造改革の総まとめとして、効率的で小さな政府の実現に向けて一歩を踏み出す「改革加速予算」とも言うべき内容となりました。また、人間力の向上・発揮、高齢化社会・少子化対策などの四分野に施策を集中。限られた財政を効率的、重点的に配分することにより、我が国の

新たな成長基盤を強化していく内容となっています。その中で、2つの予算案について皆さんにお話しておきたいと思います。

通常国会に「まちづくり3法」改正

自民党は、平成9年に「中心市街地再活性化大綱」を取りまとめ、その実現のために、平成10年に「まちづくり三法」（大規模小売店舗立地法、中心市街地活性化法、都市計画法）が整備されました。しかし、その後も中心市街地の空洞化は一層深刻化しています。そこで、一昨年より中心市街地再活性化調査会の「まちづくり三法見直し検討ワーキングチーム」で議論を重ねてきました。昨年12月21日には、「最終取りまとめ案」を決定。今通常国会に抜本改正案を提出しました。

耐震診断・改修を支援するための税制改正、予算措置を行なう

昨年末に発覚した偽装問題ですが、被害住民への対応に加え、自らの住宅の耐震性に不安を感じる国民による耐震診断や耐震改修を支援するため、平成18年度税制改正において耐震改修促進税制を創設するとともに、17年度補正予算案及び18年度予算案において耐震改修等を促進するため必要な予算を確保しました。

今通常国会、山積する課題に取り組んで参りますので、ご支援よろしく願います。



党大会後に行われたレセプションで司会を務める

自由民主党第73回党大会 を与えていただいた」と語り、「国民の選

が1月18日、東京都港区の新高輪プリンスホテルで行われました。全国から集まった党員・党友をはじめ、約3200人が出席。大会は、「新しい時代、新しい日本への第一歩」にふさわしく華やかで盛大なものとなりました。小泉純一郎総裁を先頭に「改革、加速」に取り組んでいくことを誓い合い、また、大会司会者によって雪害に苦しむ地域の方々へのお見舞いの言葉が述べられました。党務報告、平成18年運動方針案、党則改正案、予算・決算について説明がされ、優秀党員への表彰式なども行われました。

小泉総裁は、演説の中で昨夏の総選挙に触れ、「多くの国民に50年に及び自由民主党の果たしてきた役割、実績を評価していただきたいと同時に、新しい時代に対する改革の必要性をこめて自由民主党に大きな勝利

挙の審判による期待を大事にして、さらに改革を加速させていくのが今年の自由民主党の大きな責務」と強調。「よき歴史、伝統、文化を守りながらも『保守したくば、革新せよ』という言葉を銘記して、新しい時代に対応できるような体制を皆さんと共に築き上げていきたい」と決意を表明しました。

今回、私は、定期党大会後のレセプションで司会・進行役に抜擢されました。また、大会アピール文の案作りにも作成委員として携わることができ、身の引き締まる思いでした。新春らしく、私自身の政治活動に対する原点に立ち返る良い機会ともなりました。

これからも地元埼玉と日本の社会をより良いものにするために益々精進していきますので、どうぞよろしくお願い致します。

党大会後のレセプションにて



自衛隊のYS-11に搭乗

外務委員会の視察

で1月11日から13日までの3日間、沖縄県にある米軍基地の視察、そして海洋権益にかかる実地調査をしてきました。米軍基地再編問題には様々な問題がありとても複雑で、世界的な安全保障問題、地域経済との関係、駐留米兵の事件事故といった課題を多く抱えています。

今回私が派遣された場所は、キャンプ・コートニー、キャンプ・シュワブの両基地と普天間基地の移設予定地である辺野古崎沿岸でした。キャンプ・コートニー基地では、ウェーバー在日米海兵隊司令官と懇談を行い、在日米軍再編に関わる中間報告を聞くことができました。また、普天間飛行場の移設先がキャンプ・シュワブ沿岸とされたことについては、沖縄県、地元住民などの反対もあって非常に厳しい状況にあることを肌で感じてきました。委員会としても、米軍基地を受入れている地元住民の負担の軽減を図ることが最重要課題となっていることを司令官に伝え、基地問題解決のための協力要請を行って来ました。ウェーバー司令官からは、米軍の再編が沖縄の人々の基地負担の軽減につながるよう最善をつくしていきたいとの発言があり

ました。

さて、本題の日中中間線ですが、視察では那覇基地から航空自衛隊のYS-11に搭乗して、東シナ海の日中中間線における中国の油ガス田開発現場及び尖閣諸島を上空から視察してきました。尖閣諸島は、我が国固有の領土ですが、石油やガスなど埋蔵資源の存在が確認されていることから、中国による海洋調査や日中中間線付近でのガス田開発などが、日本側の中止要請にも関わらず行われていることについて、党内でも海洋権益特別委員会などで活発な議論がなされているだけに、今回視察で現場を目の当たりにして、改めて資源確保の重要性や国境線の持つ意味の重大さを再認識しました。この付近では、人影や中国艦船の確認はできなかったものの、天候及び春暁の油ガス田の海洋構築物をはっきりと見ることができました。今回の視察では、その後八重山諸島の石垣島や竹富島の首長との会談もあったわけですが、一番印象に残ったのは、沖縄の数々の島が正に日本の国境線を有しているという事実です。埼玉県にいると普段は感じませんが、国境を守るために離島振興が重要な政策であることを再認識しました。



日中中間線における中国の油ガス田開発現場

PROFILE



衆議院議員 土屋品子 (つちやしなこ)

1952年生まれ。粕壁小、浦和岸中、共立女子高を経て、聖心女子大学文学部歴史社会学科卒業。料理研究家、フラワーアーティスト、短大・大学客員教授。1996年10月の総選挙で埼玉13区より初当選。衆議院議員。現在4期目。厚生委員、法務委員、決算行政監視委員、青少年問題に関する特別委員会理事、衆議院憲法調査会、外務大臣政務官、党国土交通専門部会長、党外交部会長を歴任。現在、党政調副会長、外務委員、内閣委員。他に、日本エジプト友好協会理事、国会議員フットサルクラブ会長、対地雷全面禁止推進連副会長、日本アイスランド友好議連事務局、日本カナダ友好議連事務局。

INFOMATION

さわやかボランティアを募集しています。

「土屋品子」とともに新しい時代のさわやかな政治を実現しましょう。土屋品子後援会ではあなたの参加をお待ちしています。

「さわやかキャンペーン」ミニ集會に土屋品子をお呼びください。

各地区でミニ集會を開催中です。どうぞ友人や仲間と一緒にご参加ください。また、ミニ集會に土屋品子をお呼びください。

国会の中に入ったことがありますか？

国会見学にお越し下さい。土屋品子の職場であり、国の法律が決まる場である国会に見学に来て下さい。友人・知人と一緒に、何人でも結構です。



ご意見をお聞かせください。

- OWLS NET WORK : <http://www.owls.co.jp/>
- E-mail : otayori@owl1.owls.co.jp